

全労連社会保障闘争本部ニュース

NO.139

全労連社会保障闘争本部発行

2021 年 2 月 5 日



神奈川医労連

医療・介護にさらなる財政支援を

（神奈川の仲間から）神奈川県医労連は昨秋、国・自治体・団体に対し、コロナ禍で疲弊する医療・介護現場の「経営努力だけでは限界」である実態とともに、早急な公的資金の財政支援を求める行動を行ってきました。引き続き声をあげる運動を強めていきます。

■記者会見■ 11月5日、秋闘産別統一行動では、「国は医療・介護に財政支援を」の横断幕を作成し県内の民医連3病院前での早朝宣伝を実施。

あわせて県庁で記者会見を開き、実態調査の結果を公表しました。主な内容は、①2期連続で一時金が削減されたこと、②長時間労働やサービス残業が増えたこと、③全自治体を対象とした「いのち署名」と連動する請願・陳情の提出などです。

■現場に痛みが■ 20秋闘は、公務・民間を問わず収益減を理由にした賃金・労働条件引き下げ等が提案されてきました。

人事院勧告では10年ぶりに期末勤勉手当0・05ヵ月引き下げられ、民間では幾つかの単組で定昇見送

りや手当等の廃止がされ、未組織職場からの不当解雇や退職強要等の労働相談も急増しました。

日本医労連の実態調査では、感染予防による職員の行動自粛が続き、職場内でまともに会話をすることすら憚られるなかで、8割以上が「ストレスや疲れが増している」と回答した状況となっています。



■いのちを守る政治に■ 政府はこの一年、感染予防や医療体制の整備などよりもGOTOキャンペーンを優先し、後手後手の対応となった結果、年が明けても更に感染者が増え続けています。医労連がある病院の組合員も陽性や濃厚接触者となるケースが出ています。コロナ感染は災害ではなく政府による人災であると言わざるを得ません。

脆弱にされ続けてきた医療体制を見直して、大幅な増員を求めるとともに、削減ありきの地域医療構想をストップし、いのちを守る政治に切り替えていきましょう。

■コロナ禍での春闘■ 今年はコロナ禍から1年経過した中での春闘です。収益減を理由に、最前線でたたかう医療・介護労働者に対し、安易な雇止め・賃金・労働条件の引き下げ等を許さず、賃上げや増員による「組合員の生活を守る春闘」を展開していきます。

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会

県立がんセンターと

移転・統合東北ろうさい病院、

仙台赤十字病院の

現地存続を求める



1万2,385筆の署名を県に提出

写真上

(1月26日河北新報) 県医療労働組合連合会などは25日、県立がんセンター(名取市)と連携・統合協議中の東北労災病院(仙台市青葉区)、仙台赤十字病院(太白区)の現地存続を求める1万2385筆の署名簿を県に提出した。

県医労連の中山修執行委員長と両病院の周辺住民ら17人が県庁を訪れ、佐野好昭副知事に手渡した。中山執行委員長は「住民、患者、医療従事者らの声を受け止め、県民が望んでいることは何か見極めてほしい」と訴えた。佐野副知事は「地域医療の重要性は認識している。高齢化や人口減が進む中で、現行の地域医療サービスを継続するために求められることを検討しなければならない」と応じた。



労組は連日行動！

仙台赤十字病院前早朝宣伝、
地域へ反対署名ポスティング
&市中心部で街頭宣伝

宮城県に対する反対署名提出の翌日 26 日（火）には、労働組合の取り組みが進められました。

仙台赤十字病院前での早朝宣伝には 8 名が参加して移転統合反対ビラ等、職員に配布。その後に近隣住宅へ反対署名等 1500 枚程のポスティングが行いました。昼宣伝には 10 名が参加して 200 筆の署名を集めています。

ケースワーカーの増員で、 住民にきちんと寄り添える 体制に



名古屋市職労 磯村 和佳子さん

（自治労連女性部だよりから）私は、名古屋市中区役所で生活保護の担当をしています。名古屋市は 区ごとに相違はありますが、中区では、4 月に相談件数が急増し、それ以降、少し減る傾向にありましたが、8 月に再び増となりました。

担当しているケースでは、「年金だけでは暮らせず ホテルの清掃の 仕事をしていたがコロナでお客さんが激減し、仕事がなくなってしまった」「息子に援助してもらい暮らしていたが、コロナで息子の収入が減り、援助もなくなった」「夜の飲食店で働いていたが、コロナで閉店、仕事を失った」「パチンコ店で働いていたが、コロナで仕事に入れる日数が減り、うつ病を発症。仕事を失った」「外国籍で無年金、エステで働いていたが、コロナの影響で失職」もともとぎりぎりの暮らしをしていた人たちが、コロナでいよいよ暮らせなくなった事例がほとんどです。そして女性が多い。非正規労働者である彼女たちは一生懸命働いても、このような情勢のあおりを受け、真っ先に落層してきます。国民の権利ではありますが、生活保護を受けたくて 保護を受ける人はいません。支援する施策がもっとあればと思います。

名古屋市では圧倒的にケースワーカーの数が足りません。厚労省の基準 80 ケース を大幅にこえて担当しているため、受給世帯の訪問などに充分に取り組めません。職員を増やして、きちんと寄り添いたいです。今後さらに住民の暮らしが厳しくなるのではと思います。コロナの感染拡大が収まらない状況で、職場や暮らしの中に解決すべき課題が山積しています。自治体の施策、自治体職員の頑張りだけでなく、国が住民のいのちと暮らしを守ることを最優先にする 政治が 求められていると思います。



一介護署名を提出しますー

コロナ危機から介護を守る！2.17 国会行動

2月17日 (水) 11:00～12:30 (10時30分から入場可能)

主催 公益社団法人認知症の人と家族の会／21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会／いのちと暮らしを脅かす安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉の会／守ろう！介護保険制度・市民の会／全国労働組合総連合／全日本民主医療機関連合会／中央社会保障推進協議会

会場 参議院会館B109会議室 (zoom参加を基本)

日程

11:00～12:00 厚生労働省要請

12:00～12:30 介護署名提出院内集会

参加申込 2月14日(日)までに kaigo@zenroren.gr.jp までメールを送ってください。

件名は「2・17介護国会行動」本文に以下を記入

組織名 氏名 メールアドレス

ZOOM参加者には2月15日(月)にZOOMの参加案内メールを送ります。

一言カードのとりくみ

添付のカードに要求やコロナ禍での現場の実態を書いて送ってください。

ツイッターやニュースで紹介するとともに国会議員に届けます。

〆切2月15日(月) 送り先 全労連 介護・ヘルパーネットあて(担当:前田・栗原)

〒113-8462 文京区湯島2-4-4 全労連会館4階

FAX 03/5842-5620 mail kaigo@zenroren.gr.jp

署名送付 2月15日(月) 送り先 上記

全労連全体で10万目標

全労連 2・7ローカルビッグアクション

コロナ危機から
いのちと健康を守る
いのちを守る
署名をひろげよう



2/1～2/7
#いのちまもる
ツイッターデモ
フラスターで要求を
ツイートしよう

フラスターは
ここから→
ダウンロード
※全国のコンビニでも
出力できます



